

豊かな「水」と共に育む

大垣市教育委員会 教育委員 堀 哲也

みなさんは「ハリヨ」という魚を知っていますか。冷たいきれいな水の中にしかすむことができない魚で、湧水がある所の近くにだけすんでいる体長5cmほどのトゲウオ科の淡水魚です。大垣市では、昔から「ハリンコ」と呼ばれ、親しまれてきましたが、1960年代以降、地下水の過剰な汲み上げによる湧水の枯渇や水質の悪化、水域の埋め立てなどにより、生息域は狭められてきています。一時は絶滅の危機にありましたが、地元の方々の熱意でハリヨが住みやすい環境を存続させて守ってきました。

ハリヨを守ることは水を守ることです。西濃地方の豊富できれいな水は、わたしたちの生活にとっても必要であり、この水こそが「水都」とよばれるこの地方の文化を育てて来ました。市と地元の保存会や小中学校が、地域学習の場でハリヨの生態や保護活動を通じて環境意識の向上と郷土愛を育んでいます。

今、「学校の働き方改革」が進められています。子供を取り巻く環境や社会の変化の中、学校では子供に関わる多くの業務を教員が責任感や使命感で担ってきました。しかし、これらに対応する教員の長時間労働は深刻です、教員の働く環境が厳しいと意欲や能力のある若者が教員を志さなくなり、学校教育の質の低下につながってしまいます。長時間勤務で疲れている教員が子供たちに良い授業ができるでしょうか。指導する立場である教員自身の日々の生活の質や人生が、豊かでなければいけません。

「働きやすさ」や「働き甲斐」という言葉を耳にします。同じような言葉ではありますが「働き甲斐」は個人の成長や向上心であり、「働きやすさ」は、「働き甲斐」を挫いてしまう要因を取り除くことだと思います。子供たちの成長と質の高い学びを提供するには何が重要で、限られた時間をどのように配分するか。学校だけでなく社会・地域・家庭も一体となって子供が育つ環境を支えていくことが求められているのでしょうか。

「校長先生の涙」

養老町教育委員会 教育委員 後藤 稔治

昨年秋の学校訪問の時のことである。最終日は、前年用事があって欠席した小学校であった。迎えていただいた小柄な女性校長に、前年のご無礼をお詫びすると、「その折は残念でした。ところで、今日はあなたの好きな理科の授業はありませんよ」とおっしゃった。それは残念。授業参観する。どの教室も、子どもが集中して授業に取り組んでいる姿が見られた。タブレットなどICTの活用もよく工夫されていた。そのいくつかを記す。

3年生体育の授業は、体育館で参観。事前に教師がダンスしている様子を動画で撮影したものを見せている。軽快なリズムに児童も興味津々。2年生算数の授業。直角三角形や正方形を隙間なく並べる授業。児童の作った模様を電子黒板に掲示して、全体で共有している。4年生音楽の授業は音楽室で参観。録音した合唱を聴いて振り返りカードに記入している。旋律が重なるとハーモニーになる。全然違う曲なのに合わせると良くなる。わかば組の自立活動。絵カードをボックスの中に片付けよう。バスケットボール（絵カード）→体育でやった（児童）→そうだね（先生）。レモン（絵カード）→食べると酸っぱい（児童）→そうだね（先生）。共感してくださる先生が有難い。1年生国語の授業。児童は、クジラ雲に乗って空を旅する様子を想像。「雲に乗ったねー。皆を乗せてどうしましたか」答えたくなる様に仕向ける先生。「海も空も青いので泳いでいるのだと思います。（児童）」。5年生社会科の授業。地元農産物の販売についての学習。ICTは導入の場面で、南濃町道の駅や養老ファーマーズなど。「みかんだけでなく、お菓子も売ってるよ。」と児童の声。6年生社会の授業。なぜ秀吉は刀狩をしたのか。「百姓が武士に反抗しないように」。児童の声が次々とあがる。4年生書写の授業。「土地」の字を書く。どうしても、「土」に較べて「地」が大きい。ポジショニング（コンピュータ・ソフト）を使って、前回よりも上手に書けたか確認している。

授業参観の後、教育委員より「若い教員が育っている」という声があった。「課題を明確にした授業で、先生の発問や指示が良い」という声もあった。女性校長はこの小学校で4年目。60歳、最後の年度だ。教育委員の高い評価に、校長はうっすらと瞳を潤ませた。本当にご苦労様でした。